

2020年度 活動報告

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

<ビジョン>

よりよい未来を、こどももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

<ミッション>

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。
- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。
- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

<バリュー>

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを实践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

2 2020年度業務の全体像

(1) ワークショップの提供状況や内容の外観

◇参加の文化を拓げる指標の結果は下表のとおりである。2020年度の**特徴**としては、ほとんどすべての指標で、前年度比で半分以下の実績となっている。特に、新規業務数（率）の減少幅が大きい。

指標名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
業務数	35	36	37	32	18
WS提供日数	159	139	135	130	71
WS提供時間	428	442.5	460.5	496.0	292.0
WS参加者数	1,468	1,424	1,446	2,056	489
延べ参加者数	3,258	3,034	3,200	3,981	1,484
新規業務数	14	13	12	10	3
新規業務率	40%	36%	32%	31%	17%
継続実施数	21	23	23	22	15
指導者研修率	54%	59%	51% [※]	47%	83%

※ 業務数の中には6つの自主プロジェクトを含む。但し、WS関連数は対外的なものだけを計上した。

(2) 扱ったテーマ

◇国際理解系（SDGs、国際交流、多文化共生を含む）が8件と最も多く、次いで人権系（SE、コミュニケーション、子どもアドボケイトを含む）が5件などとなっている。

テーマ	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
国際理解系	11件	12件	11件	11件	8件
人権系	5件	8件	7件	5件	4件
環境系	2件	2件	0件	1件	1件
ファシリテーション・まちづくり系	14件	7件	14件	10件	1件
全複合	1件	1件	1件	2件	1件

※：業務の中に種類の異なる複数の研修等がある場合は分けて計上した。内部向け自主プロは除く。

全複合は、あいち惟の森テーマ・スキル学習とT講座（2020年度は中止）である。

(3) 実施した地域 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 13 業務）

◇愛知県が 8 件と最多で大半を占めている。遠方の香川、茨城はオンライン実施であった。

地域	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
愛知県	29 件	23 件	22 件	18 件	8 件
岐阜・三重県	3 件 [2,1]	4 件 [2,2]	2 件 [2,0]	2 件 [2,0]	0 件 [0,0]
香川・高知県	1 件 [1,0]	6 件 [4,2]	5 件 [3,2]	5 件 [4,1]	1 件 [1,0]
その他遠県等	2 件 北海道、長野	3 件 北海道、長野 2	3 件 長野、滋賀、東京	2 件 長野、茨城	3 件 長野、茨城、山口

(4) 主催者 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 13 業務）

◇コロナ禍の影響で教育団体系（教育委員会、学校）からの依頼が軒並み中止となり、昨年度の 9 件から 1 件となった。NPO、自治体系からの依頼も半分以下になった一方、JICA、民間団体からの依頼は増えた。

主催者	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
教育団体系	12 件	9 件	11 件	9 件	1 件
NPO	5 件	7 件	8 件	7 件	3 件
自治体系	11 件	7 件	6 件	7 件	2 件
JICA	3 件	5 件	5 件	3 件	4 件
その他民間団体	0 件	1 件	2 件	1 件	3 件

(5) ワークショップの時間 対外的なワークショップを行っていない事業を除く

◇12 時間超が 8 件と最も多く、次いで 3～4 時間が 4 件などとなっている。

◇提供時間が長い上位 3 位の業務は次のとおりであった。

- ・オルタナティブ・スクールあいち惟の森テーマ・スキル学習 110 時間
- ・JICA 中部 教師海外研修ガイドブック研修 34 時間
- ・JICA 中部 オンライン開発教育指導者研修（実践編）34 時間

業務あたりの WS 時間	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
3 時間未満	6 件	5 件	8 件	3 件	2 件
3～4 時間	10 件	6 件	7 件	10 件	4 件
4.5～6 時間	1 件	5 件	7 件	9 件	1 件
6.5～12 時間	5 件	4 件	6 件	2 件	1 件
12 時間超	12 件	13 件	11 件	8 件	8 件

※：1 業務の中に種類の異なる研修・講座がある場合は分けて計上した。

(6) 依頼ファシリテーター数、時間（担当）

◇依頼ファシリテーター数（複数回講座でも1人で担う場合は1人として計上）は35人であった。

◇代表の請負率（代表率）は43%であり、研究員請負率が46%と同程度となっている。

但し、代表はワークショップ時間や日数が長い業務を担っているため、時間数や日数の観点で見ると、まだまだ代表が請け負っている割合は圧倒的に多い。

ファシリテーター		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
代表	伊沢	31	23	25	23	15
研究員	平野	5	5	4	4	1
	伴	3	6	4	4	3
	久世	1	3	2	3	2
	川合	2	3	1		
研究員補等	堀川	1	1	1	1	
	田口	1	3	5	4	3
	鉄井	2	5	5	5	4
	長野	2	2	5	2	2
	吉岡	1	1	1	1	
	佐藤		1	1	1	
	谷口		1	1	1	1
	永吉			2	2	
	二宮				1	1
	大島				1	1
	夏目	1		1		2
合計		50	54	58	53	35
代表率		62%	43%	43%	43%	43%
研究員請負数		12	18	28	26	16
同上率		24%	33%	48%	49%	46%
研究員補等請負数		7	12	2	4	4
同上率		14%	22%	3%	8%	11%
備考 （複数F依頼）		JICA(3) 中京大(5) 春日高(2) ボラセン(3) 旭中(2) JICA北海道(2) 三重環境(2)	JICA(3) 刈谷(3) 春日高(2) ボラセン(5) JICA北海道(2) 三重環境(2) 名古屋JC(3)	JICA(3) 刈谷(6) 中京大(5) 春日高(2) ボラセン(5) 名古屋JC(3) 惟の森(5)	JICA(3) 刈谷(2) 春日高(2) ボラセン(5) 惟の森(10) 北一社小(2) JICA筑波(2)	JICA(5) 名古屋JC(4) ボラセン(4) 惟の森(10)

注：自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるのファシリテーターは除く。
2020年度はオンラインによるサブファシリテーターを含む。

3 各ミッションに対する 2020 年度の総括（成果と課題）

① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。

2020 年度の事業計画のミッション①に関する総括は次のとおりである。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション①の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション①の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション①に関する評価指標づくりと試験運用	◆NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標の導入について、昨年度の検討から先に進めることができなかった。

② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。

◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。

「わたし（自己）」に関わる力（自己形成分野）
=自己理解、自己肯定感、自尊感情など

「あなた（他者）」に関わる力（人間関係形成分野）
=コミュニケーション、他者理解、多様性理解など

「みんな（社会）」に関わる力（社会形成分野）
=協力、協働、多様性受容、対立解決、政策提言 など

関わる力は関わることで身につく、参加する力は参加することで身につけることができます。

The diagram illustrates the relationship between self, others, and society. It features three overlapping circles: a green circle labeled 'わたし' (I), a red circle labeled 'あなた' (You), and a blue circle labeled 'みんな' (Everyone). A diagonal arrow points from the bottom-left towards the top-right. At the bottom-left end of the arrow is a box labeled '自尊' (Self-respect). At the top-right end is a box labeled '共生' (Symbiosis). The arrow passes through the overlapping areas of the circles.

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション②の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション②の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション②に関する評価指標づくりと試験運用	◆NIED が提供する講座・研修が、ミッション②に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標の導入について、昨年度の検討から先に進めることができなかった。
(c) 大半以上の若者にあると思われる「社会に対する効力感」のなさの打破	◆市民性教育により有権者が変わり、選択・行動が変わるという切り口から、NIED としてできる手立てと社会的インパクトの見通しを立てられなかった。

③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(1) 学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 の 2020 年度実績

- ◇現場…3 件 : 刈谷北高校、JC 名古屋、あいち惟の森 (昨年度 11 件)
- ◇テーマ…開発・国際理解教育 2、複合 1
- ◇参加者数…88 人 (昨年度 1,370 人)、 ◇延べ 646 人 (昨年度 2,714 人)
- ◇提供時間…126.0 時間 (昨年度 286.0 時間)

(2) 担い手を養成する研修 の 2020 年度実績

- ◇現場…7 件 : JICA 中部、JICA 筑波、JICA 中国、JICA 四国、長野 SDGs プロジェクト、
名古屋市、刈谷北高校 (昨年度 8 件)
- ◇対象…教員等 6、自治体職員 1
- ◇テーマ…国際理解系 4、人権 2、環境 1
- ◇参加者数…281 人 (昨年度 245 人)、 ◇延べ 694 人 (昨年度 729 人)
- ◇提供時間…118.0 時間 (昨年度 103.5 時間)

(3) ミッション③に関する NIED の自主的取り組み

◇ミッション③に関する NIED の自主的取り組みについての実績・成果及び課題は次のとおり。

a. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編 2020

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、 基礎的なテーマ等 を提供する講座 ①T講座	◇ファシリテーター立候補者は 1 名。「環境(プラスチックゴミ)」を テーマにプログラムを作るまで行ったが、コロナ禍のため、講座 を行うことは断念した。	◆今年度もコロナ禍の状態は続いて おり、その中でどれだけのことが出 来るか模索中である。
その担い手を 養成する研修 ②T講座 プロジェクト	◇9月に担当理事(担当研究員も兼務)、ファシリテーターでプロ ジェクトチームを立ち上げた。プログラム・メイキングの基礎をオ ンラインミーティングで行い、その後ファシは担当研究員と共に 複数回のミーティングを重ねてプログラム案を作成した。また、 プログラム検討寄合を行い、2 名の寄り合い参加者からのアド バイスを受けながらさらにプログラムの練り込みを行った。 ◇ファシリテーター1名が 6 時間のプログラムを作るという経験値 を新たに得ることが出来た。	◆本番の講座がコロナ禍のため行わ れず、モチベーションを最後まで維 持するのが難しかった。 ◆NIED の基本的な社会や物事の 捉え方、考え方を問い続ける意味 でも、メンバーのスキルアップの意 味でも、NIED の入り口としてのT 講座の継続は不可欠である。

<p>その担い手を養成する研修 ③NIED寄り合いT講座系</p>	<p>◇1月にT講座検討寄り合いを行った。講座の担当ファシが作成したプログラムを寄り合い参加者2名で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。</p>	<p>◆コロナ禍のため、参加者が2名と極めて少なかった。 ◆NIEDの人材育成のためにも、T講座とそれに伴う寄り合いは継続していきたいと考える。</p>
---------------------------------------	--	--

b. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座ファシリテーター編

区分	実績・成果	課題
<p>その担い手を養成する研修F講座</p>	<p>◇「参加型で世界は変わる NIED ファシリテーター編」は、対面式へのこだわりから、状況が変わるまで開催しないことを早期に決め、他WSをオンラインでやればやるほど、NIEDのF講座は対面式を前提にすることの意義を確信できた。</p>	<p>◆人権・環境・平和などを主テーマとして流れのあるプログラムを組み立て、対話を活性化させ、参加者がよりよく学びよりよく変わる場に寄り添う役割＝NIEDが目指すファシリテーターだが、まちづくり系や会議系のファシリテーター講座依頼も増えている昨今、「教育、まちづくり、会議」どの場にも共通するファシリテーションのノウハウとノウハウに関するプログラムも蓄積してきている。COVID-19の収束が未だ見通せない状況において、オンラインの限界を承知しつつ、制約の中の最大限オンラインで対応するプログラム作成も視野にいれる必要がある。 ◆教育、会議、まちづくりなどの場立つファシリテーションのあり方は多様だが、これまでNIEDが取り組んできた「参加型」の意味と意義と方法を体系的包括的に伝えることができ、どのようなテーマの場であっても、人権意識と環境配慮を軸に持つ NIED 人材を育成する観点からも、自主講座としてのF講座実施は不可欠であると考え。</p>

c. オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習プロジェクト

区分	実績・成果	課題
<p>学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座</p>	<p>◇本格開校して2年目、生徒数は23名。主要5カリキュラムの1つである「テーマ・スキル学習」(毎週木曜日)にNIEDからファシリテーターを2人派遣し、それぞれ低学年クラスと高学年クラスに分かれ、基本構想に則ったテーマとスキルについて、コロナで1回はオンラインになったり、5月は休校になったりしたものの、年間22回(1回は45分×3コマ)のプログラムを提供することができた。 ◇7名のNIEDファシリテーターの協力が得られ、それぞれ複数回を担当することで、こどもたちとの関係性を深め、大変な1年であったが、本年も「人は学び変わる」ことを全てのFが実感し、参加型と国際理解教育のプログラムのチカラを感じることができた。 ◇1年目から各F提供プログラムを蓄積共有することで、昨年よりプログラムをすばやく作りブラッシュアップすることができている。</p>	<p>◆子どもの人数も増え、より多様な人々の集まりとなっているが、センシティブな特性を持つ人への配慮の共有が必要。 ◆他のカリキュラムでも参加型が活用されるようになってきており、アイスブレイクやアクティビティなど、かぶる場合もある。他カリキュラムとの情報共有や、NIEDのF間の情報共有をより負担感なく進めるための方法検討が必要。 ◆NIED派遣のFは、T講座F経験以上のFとなっているが、派遣人材を確保するための手立ての検討が必要。</p>

d. IVY(アイビー) 制度

…NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等に同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの(交通費自己負担、報告書要提出)。

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	◇2020 年度の利用は、コロナ禍でオンライン実施した研修が多く、0 件であった。 (昨年度:1 業務 2 名)。	◆2015 年度の会員アンケートでは、「利用したい」69%と利用意向は高いが、コロナ禍が続く中、可能な範囲で、引き続き利用をアピールしていくことが望まれる。

e. NIEDファシリテーター制度(研究員、研究員候補、T講座F経験者)

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 F制度	◇受託・派遣を担った代表以外のファシ・サブファシは次のとおりであった。 ① T講座F経験者… 0 人 ② 研究員候補…3 人(大島、二宮、夏目) ③ 研究員…7 人(平野、伴、久世、田口、鉄井、長野、谷口) ◇代表以外がファシを担う割合が 56%(日数ベース)となり、業務レベルでは半数以上を占めているが、2020 年度はオンラインでのサブファシ需要もあった。 ◇ファシリテーター制度でステップアップしたファシは以下のとおりであった。 ① T講座F経験者… 0 人(昨年度 3 人) ② 研究員候補…0 人(昨年度 2 人)	◆NIED ビジョン実現に向けて、より多くの研究員を育てるミッションを進めるため、NIED ファシリテーター制度におけるステップアップ者を増やせるよう検討、実施していく必要がある。

④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

(1) NIEDが直接コミュニティづくりをする事業の 2020 年度実績

◇地域・テーマの場…1 件刈谷市外国人コミュニティ (昨年度 4 件)
◇参加者数…20 人 (昨年度 242 人)、 ◇延べ 44 人 (昨年度 258 人)
◇提供時間…16.0 時間 (昨年度 26.5 時間)

(2) その担い手を育成する研修の 2020 年度実績

◇地域・テーマの場…3 件：マラソン実行委、キッズステーション、こどもフォーラム (昨年度 7 件)
◇対象…ボランティアリーダー1、NGO 職員 2
◇テーマ…ボランティア 1、コミュニケーション 1、アドボケイト 1
◇参加者数…100 人 (昨年度 199 人)、 ◇延べ 100 人 (昨年度 280 人)
◇提供時間…32.0 時間 (昨年度 80.0 時間)

⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

(1) ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

e. わたし・あなた・みんなプロジェクト = ミッション②の自分に関わる力に関する研究・発信

区分	実績・成果	課題
①SE ラボ 寄り合い	◇計 8 回の SE ラボを寄り合いとして開催し、 ほぼ 1 年を通して活動することができ、少人数ではあるがプロジェクトが保たれている。	◆他団体との協働を主題に進めるようになった 18 年度以降、活動内容が会員に見えづらいという状況に変わりがなかった。
②SEを視点とした他団体との協働	◇2020 年度は、こども NPO が中長期ビジョンとして人材育成を中心に据えることになり、団体運営と自己肯定感との親和性について団体内部に広がったと言え、これが SE ラボとしての活動成果と言える。	◆こども NPO との協働によるこれまでの成果をトレースし、NIED 内部に共有することを今年度のテーマとしたが、それには SE ラボとしての活動の限界が露わになった。 ※双方の団体と細部にわたって情報を共有するには、事業化し業務として進めることが妥当であることが分かった。

f. NIED本出版プロジェクト = ミッション②③に関する研究・発信

実績・成果	課題
<p>◇「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』-他者に関わる力を育もう-」(初版 515 冊/2018 年 3 月出版)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して普及に取り組み 35 冊を頒布することができた。 ・金城学院大学のコミュニティ福祉学科 3 年生の授業(ファシリテーター論)にて「コミュニケーション編」が教科書として採用され、委託頒布をしている。 ・残り冊数が少なくなってきたため、500 冊増刷した。 <p>◇2 冊目の本「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『人権編』-身近な人権を考える-(仮称)」の作成に取り組んでいる。人権本は身近なテーマを取り扱う予定で、多様性、セルフ・エスティーム、ジェンダーなどのアクティビティの執筆を進めている。</p> <p>◇プロジェクトメンバーのミーティングを 14 回開催した。</p>	<p>◆コミュニケーション編残り残数をいかに頒布するか。</p> <p>◆人権本の作成をしているが、残り 30% 程度の執筆が残っている。</p>

g. 公共プロジェクト = ミッション①②③に関する研究・発信

実績・成果	課題
<p>◇2018年6月に立ち上げ、2020年度は8月以降毎月一回 Zoom 寄り合いを開催。(8月～3月に9回開催)。</p> <p>◇「公共」という新教科の情報を集め、「公共」の教育の中で NIED ができることを考え、公共の学習の中でテーマとなり、かつ NIED が大切に考えるテーマに対して、授業でできる参加型学習の教材の作成を進行中。現在、プログラムのラフ案はほぼ集まりつつあり、大まかな目次ができています。</p> <p>◇より多くの人にその教材を利用してもらうため、森村豊明会に助成金を申請して出版することを計画している。助成金申請時期は2021年5月～6月(15日締め切り)。寄り合いで申請内容の話し合いを進めてきた。</p>	<p>◆教材開発を進めるとともに、実践の機会を作り教材をより良いものにしていく必要がある。</p> <p>◆いくつかのプログラムがまだできていない。7月までにはラフ案を完成させたい。</p> <p>◆森村豊明会の助成金が取れなかった場合どうするか。</p>

h. 書籍活々(いきいき)プロジェクト = 全ミッションに関わる調査・研究

実績・成果	課題
<p>◇NIED 会員にオープンなワークショップを4回開催した。 (9/27、11/29、1/30、3/20)</p> <p>延べ参加者は23名。(NIED 会員+プロジェクトメンバー=7名+16名)</p> <p>◇プロジェクトメンバーミーティングを5回開催した。</p> <p>◇書籍貸出は、一人から6冊の利用があった。(昨年度:10人から20冊)</p>	<p>◆書籍貸出記録確認ができていない。</p> <p>◆関心の高いテーマ設定で、学び合う機会づくりを進める必要がある。</p>

i. NIED情報共有システム = 全ミッションに関わる調査・研究

区分	実績・成果	課題
実績成果の共有	<p>◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダに、当該年度のT講座の記録、あいち惟の森のプログラムと教材を整理・格納した。</p> <p>◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズに応じて、過去のプログラムや教材を提供した。</p>	<p>◆情報ボックスの許容量を踏まえつつ、F講座の記録、ファシ報告書などについても優先順位を決めて、共有する方向で検討する必要がある。</p>
一般情報共有・交換	<p>◇会員メーリングリストの年間投稿数は133件[前年度352件]であった。</p> <p>◇NIED 徒然の発行は、8回行った。4月(滝)、6月(伊沢)、7月(吉岡)、9月(伊沢)、10月(伊沢)、12月(田口)、1月(伊沢)、2月(久世)。(当初予定…2月滝、3月伊沢、4月吉岡、5月谷口、6月伊沢、…、10月伊沢、11月田口、12月久世、1月伊沢、2月伴、3月滝)</p> <p>◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムを作り、周知を図った。</p>	<p>◆NIED 徒然を発行できない月4回があった。また、各月の発行日が遅れることがあった。「定期」発行するための検討が必要である。</p>

j. ホームページ・広報プロジェクト =全ミッションに関わる発信

実績・成果	課題
<p>◇電子媒体による広報活動として、NIED の活動実績等を NIED ブログに 13 件[前年度 17 件]投稿した。</p> <p>◇NIED フェイスブックページは 1,014 人がフォローし、前年同期より 64 人増加した。投稿数は 11 件[前年度 29 件]投稿した。</p>	<p>◆ブログ、フェイスブックへの投稿数が減少した。コロナ禍で事業数が減ったこともあるが、広報担当者だけでは活動すべてを把握することが難しく、活動に関わる人が広報にもかかわったり、投稿したりできるような形にしていくことが望まれる。</p> <p>◆改訂したNIEDのビジョン・ミッション・バリューを掲載し、それが伝わるような活動実績等の見せ方、その他発信の方法を検討する必要がある。</p>

4 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

(1) 事業内容

自治体、学校、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境などをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

(2) 開催概要

2020年度は、合計8事業（前年度：22事業）で、研修等の提供時間は77.0時間（前年度：139.0時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は収支計算書類を参照のこと。

(3) 延べ参加者数 385人（前年度：2,475人）

(4) 収入額 1,469,853円（昨年度：1,776,301円）謝金、委託費、交通費等

(5) 支出額 881,513円（昨年度：1,517,334円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金535,646円、謝金・外注費231,760円、旅費交通費114,107円

● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

(1) 事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱う講座を自主事業として行った。

(2) 開催概要

2020年度は、合計0事業（前年度：1事業）で、研修等の提供時間は0時間（前年度：24.0時間）であった。

(3) 延べ参加者数 0人（前年度：29人）

(4) 収入額 0円（昨年度：92,500円）参加費

(5) 支出額 28,000円（昨年度：170,482円）謝金28,000円

● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

(1) 事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

(2) 開催概要

2020年度は、合計3事業（前年度：3事業）、研修等の提供時間は46.0時間（前年度：115.0時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 396人（前年度：967人）

(4) 収入額 15,974,907円（昨年度：13,645,378円）委託費

(5) 支出額 15,204,396円（昨年度：11,849,890円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金6,025,595円、謝金・外注費6,126,020円、旅費交通費274,174円、通信運搬費530,064円、印刷製本費1,629,066円、消耗品・その他619,477円

● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

(1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式などにより行った。

(2) 開催概要

2020年度は、6つの事業（前年度：6事業）、研修等の提供時間は112.0時間（前年度：218.0時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 512人（前年度：510人）

(4) 収入額 82,114円（昨年度：157,346円）書籍頒布代

(5) 支出額 874,154円（昨年度：934,308円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金52,534円、謝金・外注費469,520円、旅費交通費40,020円、通信運搬費3,564円、印刷製本費349,800円、消耗品・その他11,250円

5 会議の開催に関する事項

(1) 総会 2020年度定期総会

日時 2020年6月27日（土）15:00～17:00

場所 カフェグローバル及びオンライン併用

出席者数 正会員総数44人中、当日出席21人（うちオンライン6人）、委任状出席14人、合計35人

- 議題
- (1) 2019年度事活動報告（案）及び決算（案）の承認に関する件-----承認
 - (2) 2020年度事業計画（案）及び予算（案）の承認に関する件-----承認
 - (3) 役員の改選に関する件-----承認

(2) 理事会 2020年度は、下表のとおり7回開催した。

回	日時	議題	場所	出席
1	5月6日(水) 18:00~21:00	(1) 2019年度事業報告案について (2) 2020年度事業計画案について	オンライン	9人
2	6月7日(日) 14:00~19:00	(1) 2019年度事業報告案、決算案について (2) 2020年度事業計画案、予算案について	オンライン	9人
3	6月17日(水) 18:00~21:00	(1) 2019年度事業報告案、決算案について (2) 2020年度事業計画案、予算案について	オンライン	9人
4	10月16日(金) 19:45~21:30	(1) 各プロジェクトの活動状況と課題について (2) その他(徒然担当、Chatowork活用停止、Zoom利用料)	NIED事務所 オンライン 併用	8人
6	12月28日(月) 14:00~18:00	(1) 各プロジェクトの活動状況と課題について (2) あいち惟の森テーマ・スキル学習の将来展望について	オンライン	9人
7	3月5日(金) 19:25~21:00	(1) 各プロジェクトの活動状況と課題について (2) その他(ERIC本の扱い、総会日程)	オンライン	8人

※出席のうち1人は事務局長である。